

PHIJを受講して
わくだ歯科 上林 弘明

卒後、口腔外科での2年の勤務を経て、オーラルフィジシャン型の診療所に勤務し3年目を迎えた2013年。GPとしての最低限は一般歯科を行えるようになってきた反面、自分の行った治療とそれによって得られる結果に疑問を抱え、どうしたら解決できるか悩みながらも、日々の診療におわれるだけの毎日を送っていました。その年のチームミーティングにて本セミナー知ったことが受講するきっかけです。

チームミーティングや、若手歯科医師向けのOPセミナーなどオーラフィジシャン型診療所に勤務してから、様々な場面で、専門医との関わり・専門医への紹介の重要性を聞いてはいましたが、実際にGPが行う歯周病治療とどう違い、どんな効果が得られるのかは自分の想像の中だけのものでした。そのため、自分にとっては、歯周病に対する知識・技術の習得とアメリカの専門医についても知ることができる良い機会でした。

しかし、キックオフミーティングで、初めて受講生の方々にお会いした時に自分よりも年配の先生が多く、勤務医で、臨床経験5年以内の先生が自分を含め2人しかいなかった事に、自分の臨床経験の少なさ、未熟さから、コース終了する7ヶ月後まで乗り切れるのか不安になったことを覚えています。

実際にコースが始まり、英語論文抄読、朝から夜までの講義・ハンズオン、毎回の復習テストで、いかに自分が行っていた歯周病治療の未熟さや学生時代に学んだ歯周病学は世界のスタンダードから外れたものや、置き去りにされたガラパゴス化したものだったかを痛感しました。

7ヶ月間、歯周病・インプラント漬けになることで、全身的なかかわりも含めた歯周病・インプラントに関する系統だった理論を学び、エビデンスに裏付けされた専門医を取得した技術の高さを直接見る事ができたことで、歯周病に対して自分の視点が変わり、専門医との連携の必要性を実感しました。

症例発表では、検査の規格性と正確性、資料をしっかりと揃えることで患者さんの背景をとらえ長期的な視点をもった治療計画につながりMTM、オーラルフィジシャンの重要性を改めて感じることができました。

また、単なる歯周病の病因論から治療法を学ぶセミナーと違い、欧米の最先端の歯科医療と日本の歯科医療の違い、あるべき歯科医療の姿、マネジメントなど「歯科」という大きな枠を様々な観点から見ることもできました。何よりこのコースをきっかけに、「学び方」を得ることができたことが大きな財産と感じています。

そして、少人数だったこともあり、他の受講生の先生の熱意ある姿勢に触れ、自分の仕事への向き合い方や今後の歯科医師としての方向性を考えるきっかけにもなり、大きな影響を受けました。

7ヶ月間を振り返ると、大変なこともありましたが、こんなに勉強し充実した日々は歯科医師になってからありませんでした。

このベーシックコースから海外のコースにつながり、海外の歯科医療の実際を見て、学んで、フィードバックしていくことでより、充実した歯科医師人生を送り、そして、より良い医療を患者さんに提供できればと思います。

最後に、本コースにあたり、準備し7ヶ月間尽力していただいたスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。